

国際学会 Collaborative Innovation Networks 2016 (COINs16)における  
「Workshop Generators Patterns: A Supporting Tool for Creating New Values in a Workshop」  
の研究発表

総合政策学部 4年 赤土由真

1. 活動日程・場所

6月8日～6月11日 イタリア・ローマ

2. 活動の目的

本研究は、新しい発見やアイデアを生み出すワークショップにおいて必要とされる「ワークショップ・ジェネレーター」の支援のために、「ワークショップ・ジェネレーター」の振る舞い方の秘訣を言語化したパターン・ランゲージ「Workshop Generator Patterns」を作成し、その活用法を開発するものである。今回の活動では、イタリアで開催される国際学会 Collaborative Innovation Networks 2016 (COINs16)にてこれまでの研究成果をまとめた論文「Workshop Generators Patterns: A Supporting Tool for Creating New Values in a Workshop」(Yuma Akado, Masafumi Nagai, Taichi Isaku, and Takashi Iba, “Workshop Generators Patterns: A Supporting Tool for Creating New Values in a Workshop,” 6<sup>th</sup> International Conference on Collaborative Innovation Networks, June, 2016)の発表を行った。

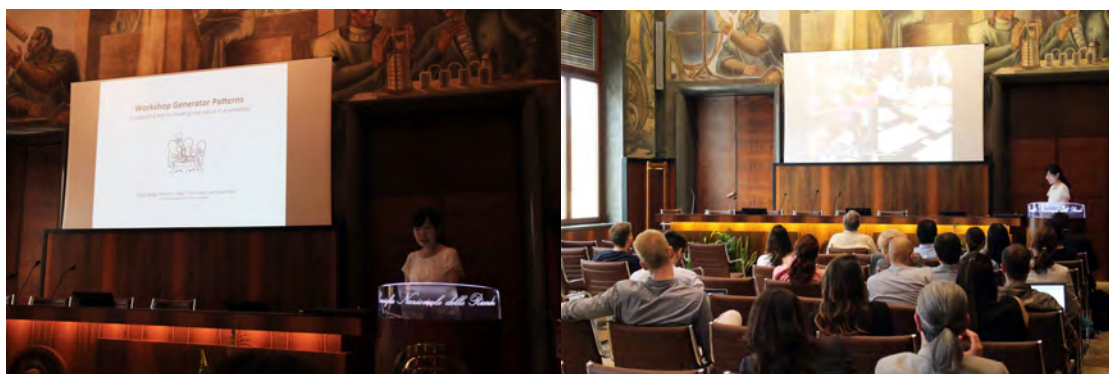
3. 研究の成果

今回の活動を通じ、以下のような成果を得ることができた。

まず、論文執筆を通して周囲の先行研究と「ワークショップ・ジェネレーター」の関係性を明確にし、整理することができた。その中で今回の学会のメインテーマである COINs(Collaborative Innovation Networks)とのつながりも見つけ、COINsの中に「ワークショップ・ジェネレーター」が存在し得るのでないか、という問いを投げかけることができた。さらに、「ファシリテーター」という、ワークショップのプロセスの責任者であり、参加者がワークショップにより深く参加できるよう支援する役割との差異や、「リーダー」というチームの先頭に立って導く役割、キース・ソーヤーの提唱する「Group Genius」という考え方との共有点や違い、そしてこれらと比較した時の「ワークショップ・ジェネレーター」の強みなども述べることができた。

また、今回の学会にてワークショップを開催していた参加者と交流する機会を通し、「Workshop Generators Patterns」への興味関心を持ってもらえたことを実感した。特に「Designing Innovative Networking Events」というワークショップを行っていた参加者が

らは、彼らのワークショップではどのパターンが使われていたかを尋ねられ、本研究のテーマだけでなく具体的なパターンの内容まで関心を寄せてもらうことができた。



学会および発表の様子

#### 4. 今後の発展

今回の学会で発表された論文をまとめた本“**Designing Networks for Innovation and Improvisation**”がSpringerより2016年8月に出版予定であるため、論文の最終修正を行う。7月の中旬に最終確認を完了させ、その後出版準備に入る予定である。

また、今回発表したパターンをより活用しやすく修正し、パターンを追加することも必要であると感じている。今後も井庭崇研究会では実施するワークショップに「ワークショップ・ジェネレーター」という役割を設ける予定であるため、パターンを強化させていくことでワークショップの質も担保できるようになると考えている。

#### 5. 謝辞

ご指導いただいた井庭崇先生をはじめ、井庭研究室のメンバー、そして研究発表を行うにあたり助成金をいただいた湘南藤沢学会様にも心より御礼を申し上げます。